

A 氏邸訪問記(2013.10.13)

—DA-3000 他の試聴—

1. はじめに

たびたびお邪魔しているオーディオ仲間の A 氏邸を S 氏、M 谷氏と一緒に訪問してきました。目的は GPS-777 他のインフラノイズの製品導入の成果の確認とともに、まだ導入されていないスピーカーリベラメンテを持参してその効果を試聴することです。さらに A 氏が昨日のデモの後、即刻購入された TASCAM のデジタルレコーダー DA-3000 の試聴も急遽追加となりました。



2. 試聴の経過

まず最初は、USB-101→CCV-5→Birdland DAC→上杉アンプ→QUAD のラインアップで PC オーディオの AudioGate で DSD 音源を再生することで現状の音を確認することから始めました。スピーカーケーブルは最近 Western に替えています。GPS-777 のクロック入力とリベラメンテシリーズのケーブルが加わったことにより、従前に比べれば随分と改善されていることが分かりました。

次に、DA-3000 の DSD 音源を聴いてみようということで、いくつかの曲を DA-3000 に外部クロックをいれないまま鳴らしてみました。先の PC オーディオでは AudioGate で DSD をいったん PCM に変換して USB-101 に送り込んでいますが、この場合は直接 DSD としての再生です。すると、外部クロックを効かせていないにも関わらず、DSD 特有の鮮度感のある音が出てきます。ある意味、これで十分ではないかという声も上がりました。では、GPS クロックの入力ということで 44.1KHz を入力します。すると河口無線の時と同様、効果は歴然で、DSD でもクロックの重要性が明確になりました。

ここで本来の目的であった Western からスピーカーリベラメンテに替えてみました

ところ、8月に拙宅でスピーカーリベラメンテ試作品を聴いた時と同様、3次元の奥行き感、弦の湿度感などが一層向上しました。

次に、PC オーディオと DA-3000 の融合ということで、音源は WAV にして Birdland の DAC の出力を DA-3000 のアンバランス入力に入れ、DA-3000 の入力ソースにアンバランスアナログ RCA を指定後、マスタークロックは外部クロックでの DSD 再生の条件として、入力ソースのモニターを行いました。このことにより回りくどいですが、PC オーディオの WAV 再生をいったんアナログにして、それを DSD で聴くということになります。なお、外部クロックは USB-101 に 48KHz、CCV-5 に 96KHz、DA-3000 に 44.1KHz と 3 重に効かせていることになります。その結果、PC オーディオでもクロックのおかげで随分とクオリティが高かったものが、さらに DSD 効果が加わって異次元の世界に入ってきました。さらに AudioGate はソースとして PC のドライブを読むことができ、CD を DSD 化して聴くことができますので、これをやってみると、これが CD か！という音になりました。さらに M 谷自作の USB ケーブルを USB-101 につないでみました。このケーブルは USB の信号線と電力線を分離し、電力供給は PC からではなく、ボタン電池で供給するものです。するとさらに切れ味が向上、迫力のある音になり、ことに Jazz 系ではこれが QUAD? というところまでできてしまいました。

3. まとめ

結論として、①GPS クロックの効果、②リベラメンテシリーズケーブルの累積効果に加えて、③DA-3000 の DSD 再生効果が加わった素晴らしい体験をすることができました。S 氏は、低音の出方や Jazz も行けるということで、QUAD のイメージを破るところまできたという感想を、ご自身も DSD 変換機能をもつ DAC や上杉アンプを使っておられる M 谷氏は DSD のイメージが変わったと感想を述べられました。今後 A 氏が DA-3000 の録音機能を活かして素晴らしい音源を確保されることは間違いないと思います。

以上